

ぼくとカピバラ

一宮南部小・2 こう田 けんゆう

「まっ白でふじ山がぜんぜん見えないね。じゃあ、サファリパークに行こうか。」

ぼくの家ぞくは、夏休みにふじ山に行く計画でした。しかし、いざふじ山の近くまで行くと、どこにふじ山があるのかわからないくらい、まっ白い雲しか見えませんでした。これではふじ山には行けないということ、行き先をサファリパークにへんこうすることになりました。ふじ山に行けなくなったことはざんねんだけど、サファリパークに行けると聞いて、かなしかったぼくの心が、きゆうに明るくなりました。ぼくは早く行きたくて、わくわくしていました。

サファリパークにつくと、さいしょは車にのってどうぶつを見に行きました。はじめに見たどうぶつはクマでした。クマは草むらでゆっくり歩いていました。ほかに、トラやゾウ、キリン、サイ、シマウマなどがいました。どのどうぶつも、体が大きくなってよかったです。

つぎに、車からおりて、歩いて見るところへ行きました。そこにはカピバラがいました。カピバラは犬くらいの大きさで、たけのこのような色をしていました。カピバラはなんとなくめんどうくさそうにのんびりしていました。ぼくはカピバラをさわってみたくありません。でもこわくてどきどきしました。なぜかという、ぼくは前に犬をさわろうとしたら、

「ワン！」

とほえておこられたことがあったからです。そのときからぼくは、どうぶつにさわるのがこわくなってしまいました。でもそこにいたカピバラはやさしそうで、さわってもおこらなさそうでした。ぼくはさわってみることにしました。カピバラの毛は犬のようにもふもふしていると思ったけど、わらのようにかたくてびっくりしました。おなかのあたりをさわってみると、ぷよぷよしてやわらかくて、かわいかったです。カピバラをなでていると、お母さんが、

「カピバラにえさをあげられるんだって。」

と言いました。ぼくは、やってみたいと思ったけれど、ふあんな気もちもうかんできました。なぜかという、ぼくは前に、ウマにニンジンあげようとして、手をかまれてしまったからです。そのときは、とてもこわい思いをしました。だから今回もカピバラに手をかまれるんじゃないかとこわいでした。しかし、ゆう気を出してやってみることにしました。

カピバラのえさやりは、手から直せつあげるのではなく、木のもつところがついていました。ぼくは少しあん心しました。カピバラの前にえさをもっていくと、少しづつ食べてくれました。一生けんめいえさを食べるすがたがかわいかったです。ゆっくりと時間をかけて、カピバラはぼくがあげたえさをぜんぶ食べてくれました。カピバラはおなかいっぱいそうな、まん足そうな顔をしていました。ぼくがえさをあげてよろこんでくれたのかな、と思いました。よろこんでもらえると、ぼくもうれしいです。カピバラもぼくも、りょう方ハッピーな気もちになりました。

ぼくはどうぶつの中であっついと思うのは、トラがだんとつで

一いです。でも、かわいいどうぶつの中では、カピバラがーいになりました。今まではカピバラのことはあまり知らなかったけれど、大すきになりました。ぼくがあげたえさを食べてくれると、うれしい気もちになります。だからぼくは、またウマのえさやりにちようせんしてみようかな、と思いました。でもまだ少しこわいので、もうちよつとあとにしようかな。